

「 自然との暮らし 」

宮崎県 西米良村立村所小学校 6年 ^{つづみ}堤 ^{はなが}花歌

わたしの住む宮崎県西米良村は、村の面積のほとんどが山です。通っている村所小学校の校庭から見下ると、きれいな一ツ瀬川が流れています。夏には冷たい川に行き、家族で水遊びをして楽しんでいます。とてもすばらしくて、美しい村が、わたしは大好きです。

村所小学校では、毎年風水害のひなん訓練があります。土木事務所の方が、土砂災害の映像を見せながら、ひなんするときの注意などを教えてくださいました。こわいなと感じながらも、いつ起こってもおかしくないと思い、真剣にひなん訓練をすることができました。村に住んでいると、大雨の季節や台風の時期などは、こわい思いをしたことがあります。わたしが3年生の夏、大雨で川の水がずいぶん増えたのです。お母さんがボストンバックに着がえやペットボトルの飲み物などを入れて、いつでもひなんができるように準備をしていました。わたしは初めてのことで、とてもこわいなと思いました。家のすぐ前の川の水は、茶色くにごり、すごい速さで流れていました。ひなん先の小学校に行くとき山から水があふれ、大きくてとがった石がたくさん落ちていました。何とかぶじに小学校にひなんできましたが、そのあとに、すぐ近くでがけくずれがあったと聞きました。工事の人たちが、新しく通れる道を作ってくれたと聞き、ほっとしました。村の人たちのために、一生懸命作業をしてくださったことをありがたいなと思いました。土砂災害のこわさを感じ、すばやくひなんすることの大切さが分かりました。

今年の夏休みには、弟と「森林のはたらき学習会」に参加して、とてもいい経験をしました。かれ葉の入った山の土と、ただの土のどちらが水を吸い込むか、という実験をしました。かれ葉の入っている土は、水をどんどん吸い込みました。逆に、ただの土は、水を吸い込まずに、土の上に水がたまっていました。このことから、雨がふったとき、山に森があれば、土がたくさん水を吸ってくれるので、土砂災害が起こりにくいことがわかりました。土砂災害を防ぐためには、森の木が大きな役割を果たしていることがわかりました。実験をしているときに、理科の学習のことを思い出しました。理科の学習で、植物のしくみやはたらきについて勉強をしたときに、森林組合の方の話聞くことができました。

「木を切るだけではだめ。育てることも同時にしないと、土砂災害がおこってしまう。」と教えてくれました。木の根っこが水を吸い、土砂崩れや地すべりを防いでくれることもわかりました。西米良村は山が多いので、産業として木を切ることもあります。同時に木を育てて、守っていることを知りました。

これからも西米良村が自然ゆたかで美しい村であるためにも、人間が山や川などの自然といっしょに生きていくことが大切だと思います。これからも、森の大切さや環境問題についても調べていきたいです。